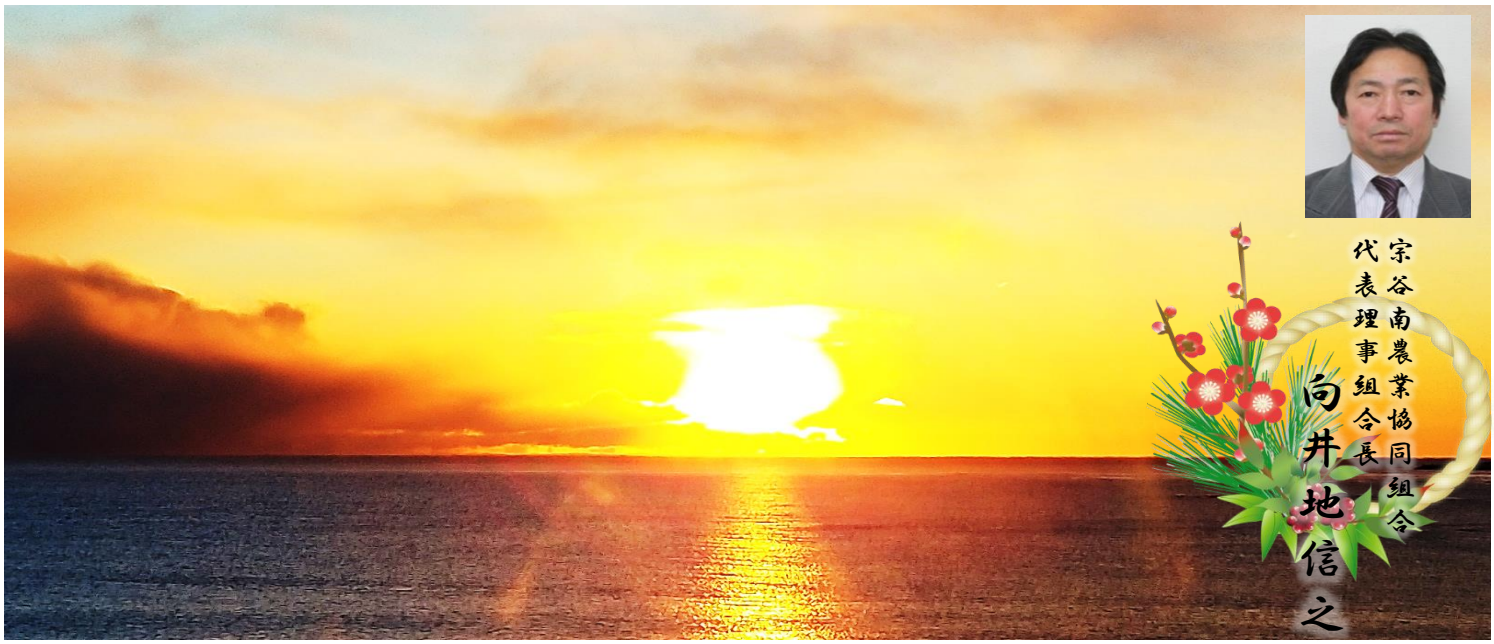
宗谷南農協通信

No16



宗谷南農業協同組合
代表理事組合長
向井地信之

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族揃って気持ちを新たに輝かしい新年を迎えられたこととご推察致します。

昨年中は、農協事業運営に多大なご支援、ご協力を頂き感謝申し上げますとともに、各関係団体、企業、町内外の多くの皆様にも事業をご利用頂いたことに厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスが発生して以来、ウイルスとの戦いが長期化しており未だ収束の兆しが見えない状況が続いておりますが、今後においても感染拡大防止に向け、注意しながらの行動、経済活動をしていかなければならないものと思っております。ワクチン接種についても4回目を既に終えられた方もおられると思いますが、重症化しない為にも接種し、お互い安心、安全な日常生活を送れるよう祈っております。

このコロナ禍の影響により組合員との対話も十分になされていないこともあり、感染対策を行った中で、10月、11月に組合員懇談会を開催させて頂きました。国際紛争などにより飼料・肥料を始めとする生産資材、燃油の高騰、生乳生産の抑制、畜産物価格の下落と、私共農業経営に与える影響は甚大なものとなり、過去に見ない酪農情勢となりました。そのような中、10月の懇談会では酪農環境における情勢報告を一早くお知らせすべきものと開催させて頂きました。また、11月の懇談会では令和5年度の営農計画作成の基本方針、上半期決算状況等を説明させて頂きましたが、先にご報告しました通り酪農情勢が一変し次年度の営農計画書作成は非常に難しいものとなり、昨年以上に厳しい年度末を迎えるものと推察しております。しかし、明るい兆しもあり、北海道加工向け原料乳価を令和5年4月から10円の値上げがホクレンと乳業メーカーでの合意が発表されました。脱脂粉乳の過去最大級の在庫量、飲用乳価を上げたことによる需給への影響の懸念もあり北海道として生乳減産を決断し取り組んでおりましたが、生産基盤の毀損につながる我々酪農家の苦境だけでなく、需給改善に向けた姿勢を理解して頂いた結果と思っております。

当組合の出荷乳量は、令和4年（クミカン等年度）5万5939トン前年比▲2，323トン、96．0％となりました。9戸の搾乳中止等もあり合併当初の目標60，000トンには未だ届かない状況であります。今年は生乳減産の取組もあり前年実績対比100％を基本とする乳量計画とした中でのスタートとなります。今後も生産者戸数の減少は避けられないと思われますが、この厳しい状況の中ではありますが新規就農者も増えることとなります。現在乳量の維持に向け積極的な支援を行う所存でございますので、乳牛の入替などは営農部へ相談して頂ければと思います。

昨今のクミカン等については、かつてない乳代単価の高値安定と個体販売価格等の高値により組合員の安定した生活が送られておりましたが、昨年は個体販売の価格が下落し、また飼料費、燃料費等あらゆる経営の支出に関する物の高騰もあり令和4年度のクミカン等の精算額は、非常に厳しい状況となりました。

このような情勢から、国からの飼料・肥料の高騰対策事業、肥料購入支援事業、金融対策としての農林漁業セーフティネット資金の活用、また、枝幸町より酪農緊急対策支援事業として助成して頂けることとなりました。国・道・枝幸町等から様々な支援策として助成金・支援金を頂いておりますので、活用させて頂きながら取り進めたく思っております。

また、農協としましても酪農経営緊急対策支援として飼養頭数を基準とした対策支援をさせて頂きました。

令和５年度の営農計画書の作成については、飼料、肥料を始めとする支出の増加と個体販売価格の低落により厳しい組合員もおられますが、前年度実績対比１００％の乳量計画でほぼ計画書の作成は完了しています。常日頃より経費節減を図って取り組まれているとは思いますが、このような厳しい酪農情勢が故に尚一層の取組が必要になってくると思われます。

組合員の皆様には常に所得向上のため、生乳生産が基本となり、良質粗飼料確保のため土地基盤整備、乳用牛の健康維持のため飼養管理の徹底が重要な課題と思っております。また、量に加え良質乳出荷による質の向上も所得に繋がるものと思われます。乳質の悪いものを淘汰入替し、所得向上に結び付けながら、将来の強固な安定経営を目指すためにも規模拡大による牛舎新築、増築、育成舎等の施設投資に取組んで頂きたいと願っております。

公共育成牧場につきましては、事業が完了したことにより受け入れ制限も解消されることと思われますので、この育成牧場の建設趣旨である労働力軽減と枝幸町酪農・肉用牛生産近代化計画に基づいた生乳生産の増産を目的とした施設として、組合員皆様の趣旨ご理解の上、引き続きご利用頂きますようお願い申し上げます。

当組合の令和４年事業年度末まで残り２ヶ月を切りましたが、年度末収支見込につきましては組合員皆様方のご努力により、昨年並みの収益が見込まれる見通しもあり、前述の支援対策を実施させて頂きました。しかしながら信用事業の収益に直轄する奨励金の逓減により厳しい状況が今後も予想され、かつ酪農経済についても厳しさが増しており、ここ数年は厳しい情勢が続くものと思われ、組合運営も次年度以降厳しい状況を迎える事と推察しております。

また、懸案事項とされていましたメカニックサービスについては、令和２年度末を以って営業を終了し、「農・自部品課」として組合員への対応をしておりますが人員の事も含め限界があり、実績確保には苦慮しております。Ａコープについてもレジのセルフ化、商品のアウトパック化等を取り入れながら取組んでおりますが、今後も組合員の減少、定年退職等による職員の減少もあることから、組合員のご理解を頂いた中で、思いきった効率化に向け断行していかなければならないものと思っております。

今年は、第30回のＪＡ北海道大会の実践２年目となり、「北海道５５０万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」と言う将来ビジョンの実現に向け、農業情勢は厳しい状況の中にありますが、協同組合運動の原点である「対話」を通じて組合員・役職員が一丸となって取り組み、消費者に対し「国消国産」の理解を求め安定経営を目指すことが重要と考えます。

昨年まではコロナ禍において組合主催行事の開催が中止を余儀なくされてきましたが、３年ぶりに「枝幸町就農者誘致促進セミナー」が開催されました。今年は収束に向かう事を切に願い組合主催行事の再開が出来る事を願っております。また、令和５年度においては更なる飛躍をめざし、役職員で努力して参ります。

最後になりますが、まだ暫らく冬期間が続きますので病気、ケガ、事故に十分注意頂き、全組合員が常に前進する事を願い、この１年も皆さまにとって満足できる年となることを心からお祈り申し上げ、新年の挨拶と致します。

宗谷南農業協同組合

代表理事組合長　向井地信之
理事・総務委員長　下山勲
理事・業務委員長　小野寺俊一
理事・営農生産委員長　吉田明彦
理事・業務副委員長　小林政夫
理事・営農生産副委員長　筒井正道
理事兼参事　松本巧
理事兼金融共済部長　清野盛
代表監事　平田勝一郎
監事　福井金吾
監事　寺前吉幸
他職員一同

年頭の挨拶

北海道農業協同組合中央会
代表理事会長　小野寺　俊幸

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様におかれましては、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の本道農業につきましては、春先は天候に恵まれ地域によって少雨の影響が見られたものの、その後は順調に推移しておりました。ただ、6月の降雹、8月の記録的な大雨、9月の台風により、一部地域、作物によっては、生育に大きな影響が出たものがありましたが、収穫作業は総じて順調に進み、天候の影響を大きく受けた作物を除いては平年作を確保することができました。

しかしながら、新型コロナウィルスとの戦いが長期化し、各農畜産物の消費は依然として低迷しております。

さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大であり、北海道・全国連とも連携し、ＪＡグループ北海道としてしっかりとその対応を図って参ります。

コロナ禍、国際紛争によって、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

ＪＡグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組んで参ります。

今年は、第30回ＪＡ北海道大会の実践２年度目となります。

決議された将来ビジョンである、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」の実現に向け、様々な課題を解決する必要があります。

農業を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、このような状況であるからこそ、協同組合運動の原点に立ち返り、相互扶助の精神に基づき互いに協力し、力を合わせこの難局を乗り越える必要があります。

また、消費者に対しては、ＪＡグループが提唱する、自国の国民が消費する食料はできるだけ自国で生産するという「国消国産」に対する理解を求め、消費者の行動変容に結びつけていくことが望まれます。

このためには、組合員、消費者との「対話」が重要となりますので、組合員・役職員が一丸となってしっかりと取り組んで参りましょう。

結びになりますが、本年は卯年です。卯は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」、また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。

他にも「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。この謂われにあやかり、本年が豊穣の年となること、新型コロナウィルスの1日も早い終息と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年の挨拶

ＪＡ宗谷南女性部
部長　戸澤　宏美

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり謹んで新春のお祝いを申し上げます。皆様におかれましては、日頃より女性部活動に対しまして、ご理解とご協力を頂いております事を心よりお礼申し上げます。

さて、昨年は引き続き新型コロナウイルスが感染拡大する中、不安定な国際情勢や円安、エネルギーや様々な原材料をはじめとする物価高騰など、相次ぐ難局に直面致しました。又、夏の長雨や子牛市場価格の急落は、私たちの酪農経営に大きな影響を及ぼし、酪農に携わる女性として、私達はこの難局をどのように乗り越えたらいいのか改めて考えさせられる一年となりました。

昨年の女性部の主な活動と致しましては、秋の道内視察研修が挙げられます。コロナウイルスの様子を見つつ予防対策を十分に行い、数年ぶりに仲間と楽しい時間を過ごすことが出来ました。日頃の苦労や悩みを語り合い、温泉で疲れを癒し、十分に英気を養うことが出来、ここ数年で一番の良い思い出を作ることが出来たのではないかと思います。

このような情勢の中、視察研修を実施すべきか悩みましたが、ご家族と農協のご理解ご協力もあり、実施出来ました事に大変感謝致します。本当にありがとうございました。

今年は少しずつ、「いつも通り」を取り戻しながらさらに活動できる事、そして何よりも世界中が平和で安心安全な生活を送ることが出来るようになることを願ってやみません。

最後になりますが、本年も農協をはじめ、各関係機関の皆様にはより一層のご指導とご協力を頂けます事、また、部員並びにご家族の皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

宗谷南農協女性部

部長	戸澤　宏美
副部長	松井　幸子
副部長	重松　ゆき
理事	菊池　静子
理事	石川　春子
理事	大塚　真央
監事	中野　明美
監事	菅原　環

新年の挨拶

新年あけましておめでとうございます。年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶申し上げます。

旧年中は部員並びに組合員様ご家族様、また宗谷南農協始め各関係機関の皆様方には日頃の青年部活動に対しまして、ご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年を振り返りますと、千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希選手の史上最年少での完全試合や東京ヤクルトスワローズの村上宗隆選手の本塁打数日本記録更新など、同年代の活躍に奮起させられた一年となりました。

昨年の牧草収穫は、1番草収穫時期の天候不順により収穫時期が遅れ良質粗飼料の確保に苦慮した1年となりました。

国内の酪農情勢については濃厚飼料や肥料、資材などの費用すべてが高騰し、個体販売価格の低下と経営が非常に厳しい状況となっております。乳製品の在庫過剰となり今年度も生産調整が行われることから厳しい状況が続いていくことが想定されます。

青年部の活動としては、相次ぐイベントの中止や、牛乳配布、紙芝居等も感染拡大の観点から厳しく活動が制限されましたが、3月に枝幸町へ乳製品の贈答による消費拡大活動を行いました。また12月に行われた全道大会は人数制限の上ですが現地開催となり新型コロナウイルスの影響も緩和されつつあることを実感いたしました。今年度は乳製品の在庫増加が非常に問題となっていることから、乳製品の消費拡大活動を今一層行いたいと考えております。

最後になりますが、旧年中はご迷惑や至らない部分が多々ございましたが、本年も青年部の更なる発展を目指し、部員一同邁進して参りますので今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

宗谷南農協青年部

部長　井上　英之
副部長　髙橋　慶大
副部長　山崎　知紀
理事　山﨑　紀幸
理事　榊原　孟
監事　佐藤　良介
監事　後藤　亮介

宗谷南
酪農ヘルパー利用組合

組合長　真壁哲也
副組合長　玉村勇司
理事　廣山辰徳
理事　山﨑紀幸
理事　井上誠治
理事　田辺谷初男
理事　松井康有
代表監事　安井一晃
監事　山崎知紀
他　職員一同

宗谷南
乳牛検定組合

組合長　藤山祐介
副組合長　関口真也
理事　堤寿浩
理事　松田司
理事　井上英之
理事　榊原孟
代表監事　髙橋慶大
監事　今賢二

宗谷南
乳質改善協議会

会長　向井地信之
副会長　桜庭明彦
副会長　真壁哲也
監事　政木大治
監事　山岸也須彦

昨年中は組合員皆様のひとかたならぬご理解、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。
今年も自己研鑽を重ねて知識と技術の向上を図り、コントラ部門、育成牧場部門共に、組合員皆様の一助となるよう努力して参ります。また搾乳部門では、第一次産業の衰退を防ぐ為、乳量の確保や将来枝幸町へ就農する担い手の受入先としての役割を果たして参ります。
何卒、昨年と変わらぬご利用・ご活用を賜りますようお願い申し上げます。
皆様におかれましても、健康で稔り多い年であります様ご祈念申し上げます。

枝幸郡枝幸町幸町８１２１番地３
株式会社　アグリサポート枝幸
代表取締役　向井地　信之
専務取締役　安　部　正昭
常務取締役　若　山　　栄

ＪＡ宗谷南役員研修で農水省訪問

11月８日から10日の日程においてＪＡ宗谷南役員研修が行われました。私は今年から農協理事となり、初めての参加となりました。組合長をはじめ、先輩役員の方々、職員の方と一緒に同行することとなり少し緊張しながらの出発となりました。

１日目の研修先である農林水産省へ向かう前に、折角の機会でありましたので武部新衆議院議員にお会いできればとの事から衆議院会館に向かいました。

入るには厳重なセキュリティ検査が必要であり、飛行機の搭乗手続きと同じような検査を行い、代議士の部屋へと案内されました。一応、事前にアポを取って伺ったのですが、残念ながら会議が長くなり面会することは出来ませんでしたが、国会議員の部屋に入ることなどそうある事ではありませんでしたので、良い経験をさせて頂きました。

その後農林水産省に赴き、現状の酪農情勢におけるＪＡ宗谷南からの要望も含めて意見交換を行う事でありました。限られた時間という事もありましたので、事前に質問等を提出しその解答を頂く形式で進行されました。

会場では松本乳製品調整官他３名の方が対応してくださいました。まず、資料に基づき飼料高騰対策、酪農対策について説明がありましたが、まさに、今私たちが参加しようとしている支援事業の説明でありました。農水の方からの説明の後、事前に提出した質問の回答も頂いた上で、意見交換を行いました。折角の機会でしたので、私からも「脱脂粉乳やバターなどが余っているのであれば、補助金をつけて輸出してはどうか？」と聞いたところ、ＷＴＯのルールで補助金をつけて輸出してはいけないとの事でした。確かに学生の頃に国が補助金をつけて輸出するのはいけないと習ったことを思い出し、ここでも関係するとは思いませんでした。他の理事からは「牛乳の生産抑制は数量を設定するより、乳質を良くした方が生産抑制効果は高いので、都府県の体細胞数40万を北海道と同じ30万にして欲しい」や、今後離農が増えることが見込まれることから、クラスター事業において「農地を有効利用するための規模拡大も認めて欲しい」等々、要請を致しました。

２日目は、農研機構、農業機械研究部門での研修となりました。畜産関係の機械について、ボディスコアを確認できる機械の説明がありましたが、まだ研究段階のもので実用化にはまだ時間が掛かるとの事でした。敷地内には資料館とショールームがあり、資料館には昔の農機具、ショールームには日本国内で製造・販売している企業から提供されている最新機種が並んでおりました。

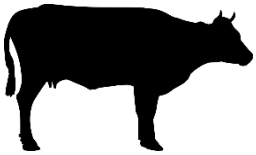
今回、自分は初めて役員研修に参加し実感したことは、農水省での意見交換においても諸先輩方との視点の違いでした。自分の視野の狭さを実感する出来事でした。短い期間でしたが、期間中好天に恵まれ、すごく勉強になる濃い研修となりました。この機会を与えてくださった、ＪＡ宗谷南、ヘルパー組合、そして家族に感謝申し上げ研修の報告とさせて頂きます。有難うございました。

（筆：ＪＡ宗谷南役員　筒井正道）

新規就農者本格稼働

昨年５月に、当農協の酪農研修生から北海道農業公社の農場リース事業を活用して就農された髙橋真彰さんご夫妻をご紹介いたします。

髙橋牧場



髙橋牧場の髙橋真彰さんは、学生の頃から酪農をやりたいと考え、道内で酪農研修を始めました。その研修先で妻である祐依さんに、自分と一緒に酪農をやって欲しいとプロポーズをし、二人で就農を目指し研修しておりましたが、２年程過ぎても就農へは恵まれませんでした。今後どうするかを悩んでいた所、向井地組合長と出会い、枝幸町での就農を考えないかと誘われたのがきっかけで、令和２年４月から枝幸町にて就農を目指し、町内牧場での研修を行い、令和４年５月より音標の今牧場跡へ就農することが出来ました。

研修中に夜中の分娩に立ち会うなどの経験をしたことが、実際に自分の経営の中でその経験が生きる機会があり、学ぶことの大切さを実感したとのことです。

令和５年度は搾乳牛頭数80頭規模での営農を計画しており、令和４年12月より順次乳牛導入を開始し、将来的には１３０頭規模での営農を目標としています。

「こうして就農することが出来たのは、研修を通して多くの事を経験させて頂いたからこそ今があると思います。これからは枝幸町の酪農家の一人として、地域に貢献出来るよう頑張っていきます。」と話されておりました。

新たに枝幸町の酪農家として加わった髙橋さんへ、先輩酪農家皆さんの応援をぜひ、よろしくお願い致します。

Ａコープ リニューアルオープン

12月９日、Ａコープが新たにリニューアルオープン致しました。又、同日から翌日10日までリニューアルオープンセールを実施し、多くの方で賑わいました。

今回のリニューアルは、Ａコープの収支改善へ向けた取組みとして、ローコスト運営手法の経営フォーマット「Ａマート」業態への移行に伴うリニューアルとなっております。

今回のリニューアルによる利点として、生鮮食品のアウトパック化によって、店内での包装や調理作業が無くなることでの労働力の軽減を図ります。今後も経営合理化を進め、店舗継続に向けて努めてまいりますので、引き続きＡコープへの変わらぬご愛顧をよろしくお願い致します。

授精所便り

牛の成績の見方

今回は、牛の成績の見方に付いてお伝えしていこうと思います。牛群改良に役立てて頂けたら幸いです。

総合指数（GNTP）とは

総合指数とは生涯生産性を高めるための指数です。総合指数は産乳成分、耐久性成分、疾病繁殖成分から算出されます。
2022年2月から産乳成分から１０％に相当する分が在群能力として耐久性成分に置き換えられました。

各項目の概要

・長命連産効果：生産寿命の延長や繁殖性の改善に重点に置いた指数で、これらの効果的な改良が期待されます。
・乳代効果　　：種雄牛自身がもつ泌乳能力の遺伝的推定値から算出式を使い乳代に換算したものです。
・泌乳持続性　：SBV（標準化育種価）で表示され、数値が大きいほどより優れています。
・難産率　　：遺伝的に難産が起こる可能性を確率で表示。
遺伝ベース７％より高くなると難産となる傾向が高まるとされています。
・死産率　　：遺伝的に死産が起こる可能性を確率で表示。
遺伝ベース６％より高くなると死産となる傾向が高まるとされています。
・気質　　：97・98は温順性が比較的低く、99～101は普通程度、102・103は温順性が比較的高い。
・搾乳性　　：97・98は搾乳が比較的遅く、99～101は普通程度、102・103は搾乳が比較的早い。
・体細胞スコア：数値が低いほど望ましい形質であり、遺伝ベース2.04より低い場合は疾病繁殖成分にプラスの影響を与えます。
・在群能力　　：SBV（標準化育種価）で表示され、数値が大きいほどより耐久性成分にプラスの影響を与えます。
・娘牛受胎率　：種雄牛の娘牛が初産分娩後の初回授精で受胎する遺伝的な確率を表示。
（遺伝ベース４２％）
・空胎日数　　：種雄牛の娘牛が初産分娩後２産目を受胎するまでに遺伝的にかかる日数。
（遺伝ベース１３８日）

＊標準化育種価(SBV)：形質による評価値のばらつきや単位の違いを標準偏差単位で揃え、各形質の遺伝的な特徴を捉えやすくしたもの。
＊気質、搾乳性、体細胞スコア、在群能力は遺伝率が低く環境の影響を受けやすいため、補助情報として利用することが推奨されています。